

第7回 仁淀川水系流域治水協議会
第7回 物部川水系流域治水協議会
議 事 要 旨

日時：令和3年12月23日（木） 14:00～16:00

場所：高知城ホール 4階多目的ホール

議事（1）規約改定

○規約改定について了承された。

議事（2）物部川水系・仁淀川水系流域治水協議会の各部会の報告

議事（3）流域治水関連会議について

○特に意見等なし

議事（4）各機関の取組紹介

議事（5）事務局からの報告

○（土佐市）

高知県の支援で個別避難計画作成に取り組んでいるが終わりが無いように感じる。来年度も引き続き取り組んでいきたいと思っているが、高知県の状況について教えて頂きたい。

○（高知県危機管理部）

災害対策法の改正により個別避難計画作成は市町村の努力義務となっている。これには新たに要配慮者になられた方や引っ越してきた方も対象となるため、随時作成・更新していく必要がある。この度の法改正による努力義務化に伴い、今年度から普通交付税措置を取ることが可能となり、補助金の見直しを進めているところである。

○（日高村）

八田堰改築に関してお伺いしたい。河川整備計画改訂の動きはいかがか。

○（高知河川国道事務所）

資料3の3ページにも記載のとおり、12月1日に開催した仁淀川流域学識者会議にて、これまでの流域治水の議論を踏まえ、今後の気候変動に対応するため治水計画の検討を開始することを確認した。まだ内部での技術検討段階だが、八田堰改築を含む上下流バランスや支川改修を含めて検討している。スケジュールは未定だが早めに進めたいと考えている。

また、放水路の扱いや上下流・左右岸・市町村毎・地区毎の安全度のバランスの観点からも細かい確認が必要と考えている。堤防強化についても整備を進めることにより、相対的に弱い箇所が新たに生じるので、上流の貯留施設等の案についても検討しながら議論を進める必要がある。

技術的な検討は我々河川管理者で実施するが、今後、関係市町村で協議していただき、流域全体で合意形成を図ることが重要であると考えている。

複数の治水整備案については、来年度から再来年度に提示したいと思っている。

物部川についても検討のスケジュールは仁淀川と大きく変わらないと考えている。

○（日高村）

八田堰はこれまで触れられない場所という認識であったが、流域治水の議論をしていく中で、今後気候変動により洪水流量が増大することを考えると、早く洪水を流すことが大事であると思う。改築にあたっては、景観・環境・利水面等の課題があるので、取り扱いには慎重にして欲しい。

○（高知河川国道事務所）

河川整備を進めていくと、相対的な強部・弱部が一部逆転するようなことがあるが、そこにこだわりすぎることなく、全体の安全度を底上げする必要があると考えている。現段階で心配なことがあれば教えていただき、全体のバランスを考えていきたい。

○（越知町）

越知町では避難にあたり大渡ダムの放流量を参考にしているが、ダム上流が降らなくても支川で降雨が生じている場合もあり、そのときどれくらい河川の水位が上がっているかは情報がない。柳瀬川・坂折川・安居川などダムの上流域ではない支川で集中的に雨が降り、それが本川に流れ込み、本川の水位が上がるという現象が見受けられる。これを把握するための何か良い方法はないか。

○（高知地方气象台）

流域雨量指数がひとつの目安になる。キキクルで公表しているデータも地形データを取り込んで雨水が集まる過程を指数化したものである。避難の際の参考になると考えられる。あくまでも指数であり、水位そのものを予測したものではないが、これまでの災害を見てみると信頼度は高いと思われる。また流域雨量指数は小さな河川も対象に公表している。

○（高知河川国道事務所）

過去の水害でどのような状況であったかを確認し、その状況に近づいたら逃げ始めるというのもあると思う。資料5の3ページでは流域平均雨量を活用したが、対象流域を細かくしすぎると当たらなくなる可能性があるため、注意が必要である。その点は气象台と協力し、検討を進めていきたい。

○（大渡ダム）

越知町では直近の筏津ダムの放流量が重要な目安となると思われる。四国電力と協力しつつ情報共有していきたい。

○（四国電力）

当社筏津ダムは、洪水調節機能を有していないため、大規模出水時は、ダムに流入した量をそのまま下流に放流している。これまで通り情報提供していくが、不明な点があればリアルタイムに問合せいただければと思う。

○（高知地方気象台）

公表しているキキクルの情報では、ダム放流量は考慮してないので留意していただきたい。

○（高知河川国道事務所）

これまで避難のための情報としては、洪水予測・降雨予測・危険水位などを提供していたが、もっと細かいところに手が届くようにしたいと考えている。提供データの使い方や避難判断のタイミングの判断方法など、今後の流域治水協議会でパイロット的にご提案したいと思う。

以上